

会話でよく使う間違えやすい動詞の使い方

goとcome

「行く」と「来る」という意味ですが、英会話でとてもよく使う基本動詞の解説です。		
go	come	
goは、話し手のいる場所から離れて行くという感じです。	comeは、話し手のいる場所へ近づいて来る（行く）ということになります。 ただし、comeは、「行く」という意味でも使われることがあります。	

takeとbring

いずれも「持って行く」という意味ですが、微妙に違って、紛らわしい動詞です。		
take	bring	
takeは、物や人を話し手から離れた所へ持って（連れて）行くという感じです。	bringは、物や人を話し手の所へ持って（連れて）来るという感じです。	

see、look、watch

英語の「見る」は、よく使うものだけでも3つもあります。		
see	look (at)	watch
単にものが見える、何かが意識せずに視野に入って来る 自然に目に入ってしまったことを表します。	注意して見る	動いている物を注意して見る
※look と watch は「ものを注意して見る」という自発的行為を表わしますが、look は、「静止しているもの」について、watchは、「動いているものについて」用いるのが一般的です。		

makeとlet

どちらも代表的な「使役動詞」ですが、使い方が微妙に違ってきます。		
make	let	
相手の意志に関係なく「無理やり～させる」という意味合いがあります。	どちらかというと、相手も立場で、「相手の望むように～させてあげる」という意味合いです。	
※make も let も目的語の後に原形不定詞が来ます。		

haveとget

どちらも「～させる」という代表的な使役動詞ですが、使い方が微妙に違ってきます。		
have	get	
相手に頼んで～させる	相手を説得して～させる	
※「させる」という意味では have と get がありますが、意味的には make と let の中間位になります。 have は原形不定詞が目的語の後に続き、get は to 不定詞が目的語の後に続きます。		

listen (to)、hear、sound

「聞く」は3つの言葉があります。		
listen (to)	hear	sound
注意して聞く、意識的に聞く	自然に聞こえてくる	～に聞こえる
※さらに「聞く」という意味では、catch や get もよく使われます。		

get、become、come to

「～になる」はいろんな動詞があります。		
get	become	come to
他の状態に変わる（スピードが速い）	他の状態に変わる（スピードが遅い）	（特に不定詞を伴い）するようになる
※get は外面的、become は内面的な変化を表すとも言えます。		

tellとteach

両方とも「教える」という意味です。		
tell	teach	
(いろいろな) 情報を教える	知識や技術を教える	

meetとsee

両方とも「会う」という意味です。		
meet	see	
(どちらか言うと、偶然に) 会う。 (約束してから) 会う、知り合いになる	見かける、(一般的な) 会う、面会する	
※初対面で会った時に、言う「お目にかかれてうれしいわ」では必ず meet を使って、2回目以降は see を使います。		